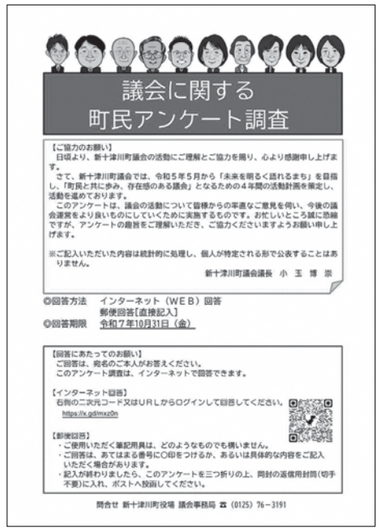
特集

町民から見える議会の姿

議会に関する町民アンケート結果



今後の議会運営や議会活動をより良いものにしていくため、令和7年10月に、600人の町民を対象にした「議会に関する町民アンケート」を実施しました。ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

今号では、アンケート結果と分析の報告並びにいただいた疑問などへの回答を紹介いたします。なお、アンケート結果の分析には、Microsoft社の生成AI「Copilot」を活用しています。

○アンケート実施の背景

新十津川町議会では、令和5年5月に策定した「議会活動基本計画」を基盤として活動を進めています。今回のアンケートは、議会活動に対する住民の認知度や評価、ご意見を幅広く収集し、住民の皆さまのニーズを的確に把握することで、「住民主体の議会活動」へのさらなる改善を目指すために実施しました。

実施期間		10月14日頃～10月31日
送付先数		600件
選出方法		議員や役場職員以外の町民から抽出
回答総数		222件（うちWEB96件）
回収率		37%
年代別	・18～29歳	・26件（11.7%）
	・30歳台	・37件（16.7%）
	・40歳台	・38件（17.1%）
	・50歳台	・44件（19.8%）
	・60歳台	・44件（19.8%）
	・70～75歳	・28件（12.7%）
	・未回答	・5件（2.3%）

アンケート結果の分析（抜粋）

○18～29歳

・議会活動への関心が比較的低く、「よくわからない」「身近に感じない」という自由記述が多い。

・議会だよりは「時々読む」「興味のある部分のみ読む」など部分的な利用が目立つ。

・参加経験や参加意欲は低めで、理由として「知らなかった」「都合が合わない」「興味がない」などが多い。

○30～59歳

・「仕事や家庭の都合で参加できない」「議会だよりは時々読む」など、生活スタイルに関連した回答が多い。

・議会活動への関心は「ある程度関心がある」「どちらともいえない」が多く、積極的な参加は少ないが、情報発信や意見交換の場には一定の期待がある。

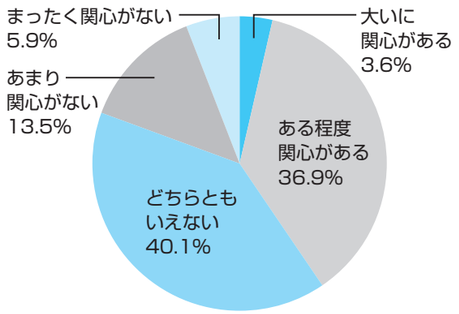
○60歳以上

・「議会だより」の閲読率が高く、「毎回読む」「有意義である」との評価が多い。

・議会活動を評価する声がある一方、専門用語や内容が分かりにくいとの指摘もある。

・参加意欲はやや低めだが、「住民のために活動してほしい」「安心して暮らせる町にしてほしい」など、町政への期待が強い。

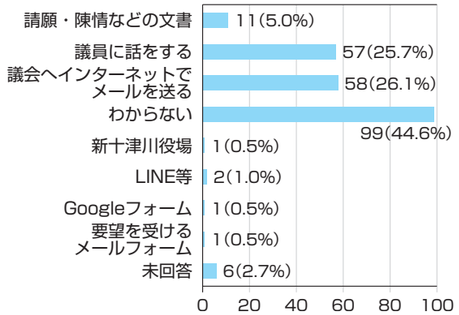
Q2 あなたは、現在の新十津川町議会の活動に関心はありますか？（1つを選択）



若年層ほど「関心がない」や「わからない」といった回答が多く、年齢が上がるほど「ある程度関心がある」や「大いに関心がある」といった回答が増加しました。関心がない理由としては、「自分の生活でいっぱいだから」、「生活に不満がないから」という声がある一方で、「議会活動に触れる機会がない」、「何をやっているかわからない」という理由もありました。

中には、「自分に関わることがない」という声もあり、啓発活動が必要だと感じます。

Q7 あなたは、議会に対して意見や要望がある場合、どのような方法で伝えたいですか？（複数選択）

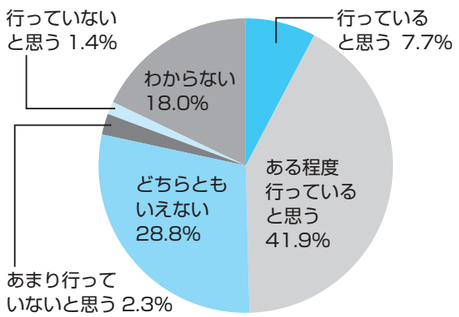


若年層・中年層は「インターネット」「LINE」「SNS」などデジタル手段を希望する傾向にありました。一方、高齢層は「直接話す」や「紙の意見箱」など従来型を重視した回答でした。

ただし、全年齢層で「わからない」という回答も多くあり、特に60歳以上で7割以上の回答がありました。伝達手段の周知不足や、議員との距離感を感じている町民も多いのだとわかります。

伝達手段の案内や、議員・議会へのアクセスのしやすさ向上が今後の課題だと考えます。

Q17 議会は、町の将来を見据えた政策の提言（まちづくりに関する提案など）を行っていると思いますか？（1つを選択）



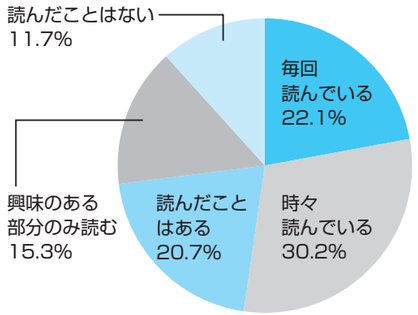
肯定的な回答の方は一定数おり、「議会だより」やSNSなどで議会の活動を知っている人が多い傾向がありました。

否定的、消極的な回答の方からは、「議会活動が見えない」「町民の声が反映されていない」「議員報酬目当てに見える」など、情報不足や不信感、実感のなさが主な理由として挙げられていました。「まちづくり勉強会などの取り組みは評価するが、もっと若い世代の意見も取り入れてほしい」といった意見もありました。

町民参加、参画の機会拡大が今後の課題であり、特に若い世代や関心が薄い層へのアプローチが必要と考えます。

Q20 あなたは、「議会だより」を読んでいますか？（1つを選択）

※議会だよりは、年に4回、「広報しんとつかわ」と併せて配布しています。

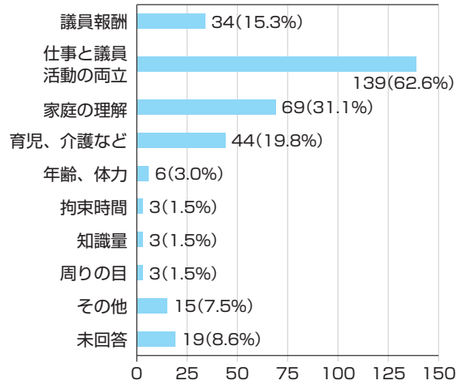


「毎回読んでいる」「時々読んでいる」と答える方が比較的多く、一定数の町民が議会だよりを情報源として活用していました。一方で「興味のある部分のみ読む」「読んだことはない」といった消極的な回答も目立ちました。

特に18歳～29歳や議会活動への関心が低い方々では「読んだことはない」「どこで見るのかわからない」といった声も見られます。

内容については、「有意義である」という意見が多いものの、「写真や図、グラフを増やして見やすくしてほしい」「専門用語を減らしてほしい」など、改善要望も多くありました。

Q30 もしあなたが議員に立候補すると考えたときに障害になると思うことは何ですか？（複数選択）



「生活とのバランスに関するもの」が障害として最も多く考えられていると分かります。また、経済的な不安も大きな障害と認識されていました。地域社会の目も障害として認識されていました。

これらの障害（不安）を可能な限り取り除くことができるよう、今期の議会において、「議会のあり方」を見直していく必要があります。

アンケートの自由意見では、「議員報酬を減額すべき」「議員は町のために無償で働くべき」といったご意見もいただきました。これらは誰かが声を上げてくださらなければ、なかなか議論にならないことでした。言いにくいことを回答していただき、ありがとうございました。

議員の仕事は、議会で議論したり、皆さんの声を聞いたり、現場を視察したりと、時間も労力も多く使っています。このような状況の中でも、さまざまな立場の方が安心して議員活動に専念できるよう、経済的な不安なく働ける環境を整えることが大切だと考えています。議員の報酬も、その仕事の重みに見合った額で、皆さんに分かりやすく開示することがとても重要だと考えています。そうすることで幅広い方々が議員に挑戦できるようになり、皆さんの暮らしに寄り添った、より良い町政が実現すると考えます。

したがって、「この人になら議員報酬を払っても構わない」という方をぜひ議員に推薦、担いでいただき、皆さんの力で、皆さんの納得がいく議会を作っていくことが大切と思います。

もちろん、私たち現職議員も皆さんに納得していただけるよう、引き続き精一杯努力していきます。

その1つの手段として、今後、議員報酬や議員定数について、今期議会の考えを示すことになります。2月にワークショップを開催し、住民の皆さまと一緒に議論したうえで、3月中に議会としての考えを決定し、次回（令和8年5月）の議会だよりなどで公表する予定です。

ぜひ私たち議会と一緒に、次の議会の納得がいく議会を作ることが大切と思います。

ワークショップ「議員定数」を考えよう！

令和9年5月からの新十津川町議会の議員定数について、私たちと一緒に考えましょう。今回は「公開討論会」のようなイメージで行います。

皆さまの声を聴きながら、「新十津川町議会」としての結論を作っていきます。より多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

準備の都合により、事前申し込みをお願いいたします。

日時 2月28日㈯ 13時30分～16時まで
会場 総合健康福祉センター ゆめりあ
内容 新十津川町の議員定数について
申込方法 次の二次元コードか、電話で申し込みください。
申込先 新十津川町議会事務局
TEL 76・3191

～いただいたご意見と回答～

たくさんのご意見ありがとうございました。一部ですが、紙面にて回答させていただきます。なお、町の政策に関するご意見は載せていませんが議員個々で確認していますのでご了承願います。

Q 「SNSやLINEなどデジタルツールでの情報発信を増やしてほしい」、「議会公式YouTubeやInstagram、LINEでの発信があれば見たい」

新十津川町議会はInstagramとFacebookで活動を発信しています。また、YouTubeでは、本会議の議案説明と一般質問を試験的に期間限定で配信しているほか、常任委員会の報告動画を発信しています。ぜひご覧いただき、ご意見や、どんな発信をしたらわかりやすいかなどを教えてください。

なお、LINEにつきましては、新十津川町公式LINEを友達追加していただき、受信設定の「欲しい情報」の中から「全て」または「議会」を選択していただきますと、議会の情報を受け取ることができます。ぜひお試しください。 **A**

Q 「意見箱の設置場所が少ない」、「役場のバス停にしかなく、普段行かない人にはなじみがない。」

過去には町内郵便局に意見箱を設置したこともありました。

設置場所の拡大について検討いたします。 **A**

Q 仕事や家庭の都合で議会の活動に参加できない。

より多くの皆さまに参加いただけるよう、開催日時の拡大や、実施方法の拡充を検討いたします。アイディアをお持ちでしたらぜひ教えてください。 **A**

Q 二次元コードやGoogleフォームで意見箱を設置してほしい

2024年5月からGoogleフォームで「議会ほっとライン」という意見箱の仕組みを取り入れています。詳しくは9ページをご覧ください。 **A**

Q 議会の活動が非常に活発であり、町民（住民）との距離がとても近いなと感じております。しかしながら、実際、議員が日々どのような活動をしていて、どのように町へ活かされているのか明確でないのが残念なところだと思います。もっと議員さんの活動が反映されて、より一層、住民との話し合いや関わりを通してまちづくりしてもらえたらいいなと思います。若い層は、どの人が議員なのかわかっていない方々もいるかと思うので、もっと認知できたら距離も近くなるのかと思います。

議会だよりは、議会としての活動を報告するものと考え、議員個人の活動などについては意識して掲載していませんでした。これは、議員個人の意見が、議会全体の考えであると誤解を招く恐れがあるためです。それぞれの議員が、それぞれの取組みを通して、住民の皆さまにもっと認知していただけるよう、取り組む必要があると気づかされました。 **A**

Q 私のように仕事や育児を理由にして自分から町議の情報を得ようとしない人にも届くように、または興味が持てるようにして欲しい。

さまざまな事情で議会の情報を自ら取りに行くことが難しい方にも情報が届くような仕組みや、議会への関心を高めるための取組みを工夫してまいります。このテーマでワークショップをやってみるのも手かなと思います。 **A**

Q 「もっと子どもの声を聞く時間というのがあれば良いと思います。子どもの目線に立ってみないと分からないことも多いかと思います。」、「先のことをよく考えて。10年後、20年後の町をどのようにしていくのか考えて。」、「身近な困り事から分かりやすく解決して町内全体を巻き込むような興味深い取組みを行って貰いたい。」、「町民の小さな意見や要望にも耳を傾け真摯に対応して頂きたく思います。」

議会活動に対し、さまざまなご提案をいただき、ありがとうございました。ご指摘いただいた内容を留意して取り組んでまいります。 **A**

Q 議員活動を続けていると、議会での質問や要望がある程度出尽くしてしまうこともあると思いますが、町民のためにチェック機能を尽くしてください。

いただいた言葉をしっかりと胸に刻み、チェック機能を尽くしてまいります。 **A**